婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和二年五月二十三日印刷納本

自然美の破壞に就て

社會的同情としての美學

私共女性の理想と指導者

國民の中心問題
としての子供の幸福

昭和二年六月一日　第八十七號　(毎月一回一日發行)

東京[illegible]婦人と新社會　發[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自然美の破壊に附て

藝術の愛好と理解とを普及するために十九世紀は大なる努力を惜しまなかつたにも拘らず、併し世人は此の世紀を藝術的世紀と敢へて云はなかつたと思ふ。古代に屬する世紀、又は、中世紀から現代に移る過度時代に屬する世紀は、歴史上、藝術的時代と稱しても不都合ない。けれども、十九世紀にはその同じ名稱を附するわけには行かない。

十九世紀は大なる量の詩や、藝術品を創造してゐるばかりでなく、確かに、作曲に於ても他の時代に卓越している。が、それでも、むしろ、非藝術的世紀と云ふ名稱を受ける理由がある。と云ふのは、産業の發達により、及び、人口が稠密になつたことによつて、自然美の大破壊が行はれた。それ等の自然美は交通及び文明の機關なる蒸氣及び電氣が優勢になる以前には殆んど至る處に存在してゐたのである。恐らく、此の事實を的確に認めることが藝術に對する論議の大部分を促し、しかも、破壊されたものを取りかへす慾望をもつ論議となつてゐる。

と、云ふメルツの言葉は今日の私共が大いに反省して見る必要があります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會的同情としての美學

シルレルにとつては、藝術及び美は道德問題の解決のために要求されるのではなく、其れは人生の裝飾品、又は、道理と義務の端厳な要求に至るまでの手引であつた。が、それより一世紀後にギョーが精神と善とそして美の問題に接近した時には宗教的信仰と道德的學說の獨立の基礎が十九世紀の科學的及び歷史的の批評によつて深刻に動搖させられてゐた。そして、殊に、キヤントが理解してゐた道德法のうちに含まれた最高な義務及び宗教的或は形而上學的の確信から來つた批准は疑はれて來てゐた。殆んど靈感と云つてよい程の大なる信仰と望みがギョーを動かしてゐた。ギョーは哲學者であり詩人であり、そして、より多く豫言者であつた。彼は未來に生きてゐたのである。ギョーは人類の進歩と、完全性の信仰とを捨てなかつた。そしてこれは彼の同國人コンドルセーや又はフランス革命の知力的指導者が一世紀以前に發表した信仰であつた。

　ギョーによれば、此の世界には推進的原理がある。そして、ギョーは此の原理を生命と同視してゐる。其れは推進的原理であるばかりでなく、膨脹的原理であり、發達の原理であるばかりでなく、成長と増大の原理である。此の問題に對する彼のこの意見は生物學から來てゐる。

　我々は、今、生命のより大なる觀念が徐々と併しながら必然的に我々に迫りつゝある時代に生活してゐる。今日までは、生命は個人卽ち單

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

位に主もに關してゐた。併しながら、個人的生活卽ち人間自身の最高な形式は凡て他の有機體と同じく別々な單位の無數から構成されてゐること、及び、個々の有機體は、いはゞ一ツの社會の如き細胞の集合體であることを、生物學は我々に敎へた、そして、社會有機體の全體のうちに人間の集合體卽ち人間社會と云ふものがある此の概念は進化の理論によつて我々に强いられたものである。問題は社會の問題、そして、これは十九世紀の最も重大なる問題——社會の成長と發達と未來の問題——であつて、凡て外の問題は皆此處に集つて來る。

　人間の進步と發達の次の問題は、協同した或は聯合した精力によつて、人間の利益の統一卽ち一致共同を實現しようとすることで、そして、ギョーはこれを社會的共同作用と稱してゐる。此の聯合精力卽ち人間社會に於ける利益と生活の統一を造り出すことが、未來の仕事であり、それがギョーの理想である。これを、ギョーは將來に於て實現させようとしてゐるのである。そして、これが前に云つた信仰と望みをギョーに與へてゐる。

　彼の書いたものや思辨はこの信仰と望み卽ち未來の豫言觀によつて靈感されてあるので、彼の哲學は十九世紀の始めに於てドイツの理想主義中に多分に存在してゐた要素を含んでゐる。其の要素が其の理想主義に推進力を與へ、且つ生命と活力を與へて鼓舞したのである。獨逸の理想主義者が彼等の時代の詩や藝術作品に惹きつけられてゐて、そして、それ等の作品から靈感を受けていたと同じように、恐らくはギョーも亦フランスの大文學者、殊にユーゴーと密接な關係を保ち、そして、ユーゴーの詩中に彼の學說の詩的豫示なる觀念の多くの意識無意識の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

確證を見出したことは、猶、又、注意すべき大いに興味あることである。

ギョーの書いたものゝ凡てを貫いてゐる根本概念のうちで我々に興味を與へるものは、彼の倫理や彼の宗教哲學よりは、むしろ彼の藝術と美に關する意見である。プラトーとドイツの理想論者に續いてギョーは美の哲學に付ては最も重要な名である。彼の美學は趣味の問題——英國に於て、後には又ドイツに於て美學の範圍であつた心理學的解剖と文學的の批評——を論ずるのみならず、猶、又、最も、卓越して美の性質と心髓、及び、思想或は生活の廣い組織中に於て、美と藝術が與へられべき位置に關する、一層大なる問題を取り扱つてゐる。

故に、美學に於ける歷史の新紀元はギョーから始まつたと或るフランスの批評家が云つたのは正當である。即ち、美學の第一紀元はプラトーから始まり、そして、プラトーの美學は理想の美學であり、第二の紀元はキャトンに始まりそれは知覺の美學であり、第三の紀元はギョーから始まり、そして、それは社會的同情の美學である。一般に承諾されている意味に於ける宗教並びに道德の社會學的價値を破壞してから、ギョーは美と藝術の重要さを高調した。美と藝術が社會的同情を創造し、感情と情操の社會を造り出すと云ふのである。藝術が無かつたならば、社會的協同は完成しない。我々は知力的の提携即ち觀念の社會を造ることはできるだらう。これが形而上學の目的であつて、宗教は單にその詞藻的及び想像的の形式に過ぎない。又、我々は實際的の目的と努力の統一を實現することができるかも知れない。これが倫理學の仕事であり目的である。

けれども、それだけでは我々は感情と情操の

社會を造ることはできない。で、此の感情と情操の社會を造るのが藝術の目的である。藝術は社會的同情を社會的共同作用に附け加へる。かくして科學と哲學を通しての知力の敎育と、道德を通しての意志の敎育と、藝術を通しての感情の敎育とが、手に手をとつて同じ目的を進め人間社會に於ける共同と調和を實現するのである。

　敎會の敎理的宗敎や道德的嚴格主義者の道德律が破壞される度に於て藝術と美の重要さは增加して來る。ギヨーは道德の嚴格さを破壞してしまつた。道德の最高な原則は命令ではない。が單に人生の成長と增大である。義務は用ひられようとする。そして、自分自身を捧げてしまはうとする生命のあふれである。義務は必要と云ふ外來の法則によつて起るものではない。義務は單に餘つた力の表現である。美は實體に反

對ではない。美は遊戲でも、又、假作でもない。けれども、生命の增大である。自然界に於ても藝術作品に於てもより大きな生命を見る處に我々は美の感覺を持つ。こう云ふ概念によつてギヨーは藝術に於ける美よりは、自然界により大なる美を附け加へることができた。

　同時に、ギヨーの美の概念は、我々にロッツの意見を思ひ起さしめる。ロッツ並びにギヨーは心に理想主義の狀態を抱いてゐた。此の二人が、我々を取り卷いてゐるものと生命の實際には存在していない調和を夢みてゐた。ロッツにとつては、世界問題の終極の調和と解決はものと法則と價値の統一である。ギヨーにとつてはそれが人間社會の調和した生活、即ち、宇宙のより大なる社會的生活である。そして、兩者共に、美はものゝ理想的狀態の瞥見を我々に與へその實現を暗示することを認めてゐる。ロッツ

はものゝ全部を一度に見ることが我々に許されてあるならば、完全な實現を見得るとし、そして、ギョーは時期が到來すれば進化の過程のうちに其の實現を見得るとしてゐた。

　ギョーは美の哲學的問題を解決しようとした獨創的美學論者の最後の一人である。彼は、自然に於ても、藝術に於ても、美の心髓は何にかと云ふことゝ、人間の利益の完全な計畫のうちに美は如何なる位置を占有するか？　と云ふ此の二ツの主もな哲學的の問題に答へようとしたのである。眞理（知識の問題）實際（實在の問題）及び理想（善の問題）と美がどう云ふ風に關係してゐるか？　彼はこれ等の三ツの異つた見方を一ツの共通な言葉即ち一ツの根本概念に節約しようと企てた。そして、此の根本概念はギョーにとつては生命の原理である。併し、其の生命は精神的意義の生命であつて、單に、物質的の意味の生命ではない。それは、理想派に於て、心、思想、又は、觀念の如きいろ〳〵の言葉で現はされてゐるのと同じ內在力の表現である。故にギョーは最高な哲學問題即ち實在の問題の解決に美學を通し接近したと云ひ得る。（ノルツ）

私共女性の理想と指導者

一

理想が生れる過程はいろ〳〵ありませうが、とにかく、生きた理想と云ふものは、人が強く考へなければならない必要に迫られた時に生れ

るものであるようです。

非常な窮狀に陷つた場合に勇氣を奮ひ起してそこから復活の精神が呼び起されるように、人は自分を取卷いてゐる法律だの習慣だのが自分に滿足を與へない、或は、自分を苦しめてゐると云ふことに氣付いた時には考へ始めます。ものゝ內部を觀察しようとします。人格の源は何處にあるかを探し出そうとします。

私共女性が非常な窮狀に陷れられてゐる。法律も習慣も女性の人格を全然無視して、婦人は家畜同樣に取扱はれてゐる。苦痛のどん底に陷れられてゐると云ふことに氣が付いた時に婦人は考へ始めました。ものゝ內部を觀察しようとし、人格の源を發見しようとしました。

そして、此處に女性の理想は生れ、それが婦人論となり、引ひては婦人運動となりました。處で、この理想と云ふものは、一度生れた以上、それが絕對のものだと云ふわけには行きません。それが必ずしも正しいものであり、善であり、幸福の源となるものだと云ふわけには行きません。のみならず、往々、それが空想となつてしまうこともあります。

女性のみじめな位置と云ふ處から刺戟を受けて、悲憤の淚のうちに初期の婦人論者が掲げて吳れました女性の理想なるものは、今日になつて見ると、その大部分が間違つてゐたと云ふことが明らかになりました。

なぜなら、初期の婦人論者の理想なるものは男子の生活を人としての生活の標準として、女性獨特の生活の意義と價値を全然無視してゐました。一言で申ますなら、女性の男性模倣に終始してゐて、そして、それは誰をも益しない、誰をも幸福にしないと云ふことが、今日に於ては、益々明らかになつて居ります。初期の婦人論者

が婦人解放の基礎としてゐた經濟の力がどんなものであるかは前號に聊か書いて置きました。

二

フランス及びベルジアムとのドイツのロカルノ條約はドイツに新らしい精神を生んだ。新ドイツが生れた。ドイツ國民の新理想が樹立したと云はれて居りますが、ドイツは此の新らしい理想の下に舊い制度から、即ち固定した法律から國民を解放して、國民としての人格の發達を計らうとしてゐますが、この傾向の具體的の現れは一種の地方的愛と云つたようなものだと云はれて居ります。

つまり、今迄の大きな集合主義は外側から國民に强いたものであつて、それは一般國民の人格的な承諾を缺いてゐたからそれは無力であつたと云ふ處に氣が付いた結果、一村乃至一部落と云ふような小さい範圍内に、人格向上の運動を試みる。そして、その主もなるものは教育、社業事業、運動競技、及び宗教と云つたような方面からだと云はれて居ります。

そして、勞働階級に對する教育と云ふことに付ては、今日一般に行はれてゐる集合主義ではなく、何は置いても勞働者の家庭生活に留意せよと云ふ風に叫ばれて居ります。家庭組織と云ふことが教育組織として充分だとさへ主張されて居ります。

あの大戰爭の結果の亂れた社會狀態にかんがみて、社會改造にとりかゝるに當つて、最も急務とされてゐるものは健全な家庭の建設と云ふことになつてゐるのです。

三

皆樣も御承知の通り、イタリーではムツソリニがその鐵腕を振つて國民を有効に指導して居ますし、ロシヤではレニンは死んだ後までも其

の著しい勢力を振つて居ります。けれども、ドイツにはムツソリニのような又はレニンのような偉大な指導者がありません。

　勿論、以前のドイツは一人の指導者に盲從する習慣があつて、ヒンデンボルグ大統領に國民の大部分が投票した如きは其の習慣の惰性であつたと云はれて居りますが、併し、今日に於ては、その習慣が徐々と薄いで來て、前に云つた地方愛の外にもう一ツの獨特な現象がドイツには現れて來てゐると云はれて居ります。

　新獨逸に現れて來た其の新らしい現象と云ふのは强い指導者に指導されることを國民がだんだん嫌つて來たと云ふことであります。そして此の傾向は勞働團體のうちに殊に著しくなつて來たと云はれて居ります。で、一人の勞働者の云ふ處を聞きますと、「我々國民の指導者として我々は、危急の場合に現れて來る大人物を意味しない。けれども、責任を重んずる、自信ある、先づ、一生を一ツ仕事に捧げようとしてゐる有効な勞働者の團體を國民の指導者と云はふとする』と云つて居ります。

　イタリーに於けるムツソリニの場合のように又、ロシヤに於けるレニンの場合のように、たつた一人の指導者によつて率ひられて居るならば、その指導者が倒れた時に、又は、その指導者の勢力が衰へた時には、國民は早速五里霧中に迷はなければなりません。

　けれども、ドイツの一勞働者が云ふように、私共の指導力を、責任を重んずる有力な團體のうちに置くならば、それは永久に其の任務を果して行けると思ひます。

　そして、初期の婦人論者の男性を模範としての不自然な從つて無理な理想ではなく、女性としての、國民の母としての高き理想を掲げて、

全國女性の指導力となる國體は、勞働とか、職業とか、教育とか、宗教とか、又は、政治とか、一方にかたよつた婦人の國體ではなく、――かたよつてゐるから其れは無用だと云ふのではありません。それはそれとして其の方面に於て其の國體の人々の誠意と努力に從つてそれぐの効果が擧げられて行くことは充分に認めますが――家庭婦人を中心とした、主婦の國家に對する、又、人間種族に對するその重要な位置を充分に自覺した婦人の國體でなければならないと思ひます。

國民の中心問題としての子供の幸福

一

何事も始めが大切でありまして「一針のうちにほころびを縫ふことは九針の手をはぶく」とか、又は「一ブクの豫防の薬は百ブクの治療の薬の代りになる」とか云ふような諺がありますが、此の頃、此の諺が社會的に應用されるようになりまして、我が當局及び有志の人々が子供の生活と云ふ處に注意されるようになりましたことは、卽ち、兒童愛護の精神が益々濃厚になりつゝあることは喜ばしいことです。

現代の社會事業が眼目としなければならない處は、社會的の禍を除去するばかりでなく、その豫防です。一時的の姑息な救濟ではなく、根本的の改革です。そして、社會を根本的に改革しようとすれば、社會を構成してゐる人間を改革しなければならない。そして、人間を改革しようとすれば、その改革の仕事は子供から始めなければなりません。

子供は伸縮自在な材料です。善くも惡くも造られ得るものです。

けれども、何にか素晴らしい者に成ることが出來る素質を子供が持つて生れてゐても、もし、指導宜しきを得なければ、又は、環境の感化力が惡るければ其の有望な素質は消滅してしまうばかりでなく、却つて、惡化して行きます。

ですから、子供のために費される金と努力と時間とが多ければ多い程、より善き國民が造り上げられます。そして、不道德な惡い習慣でかたまつてしまつたかたくなな大人のために努力するよりも幼き子供のために努力する方が其の効果が遙かに大きいと云ふ處に今や人々は痛切に感ずるようになりました。

二

基督教の根本的觀念は「人間は神の子である」と云ふことです。神が人間のうちに住んでゐると云ふ根本觀念は新約全書のうちにあつて、そして、それは「人間は神の血統である」と云ふことで、これが神と人間との關係を永久に說明して居ります。子供は生れ、成長し、そして、神の光りを發揮すると云ふのです。

嬰兒は呑むことゝ、泣くことゝ、眠ることの外は何にもしません。そして、彼のために最も必要なことは湯あみさせることゝ、むつきを取りかへることです。で、これだけでは、人は嬰兒から何等の靈感を受けることは出來ないでせう。併し、この何等のれうちなきように見ゆる小さいものが、威厳と偉大さと聰明さと其の外一切のれうちあるものゝ種であります。英國の自然を歌つた大詩人は生後一ヶ月の嬰兒に付て歌つてゐます。

銀白のような純粹さのうちに無意識に動いてゐる汝
の額の上に
夜あけの光線のような微笑が現れる。

これは未知の世界を踏査しようとする愛の觸覺とも云ふべきものであるだろうか？

實に、子供を保育するに當つて母は子供の頭の働きと其の表現の一ッ〳〵に深き注意を拂ふ必要があります。その一ッ〳〵が皆重要な意義を含んでゐることを意識しなければならないと思ひます。今、云つた詩人

が歌つたように、赤子の最初の微笑は此の宇宙を探ぐる觸角であり、發見の第一歩、あると云ふ處に氣付くと云ふ風に。

子供に對する母の態度のもう一ツの重要なことは、生れた時から子供を全人格と見ることです。大抵の母は子供の肉體を世話することで彼女の手が一杯になつてゐるようです。そこでフレーベルは申ます。

「嬰兒時代には感覺と手足にのみ運動を與へて知力を無視し、學校時代になると知力ばかり働かすようなことをせず、子供は生れた時から、そして、常に、肉體と心とを同時に働かせ、發達させなければならない」と。

この言葉のうちには完全に發達の祕訣が含まれてゐます。子供の肉體も精神も常に同時に注意されてあるならば、その兩方が並行して發達して行くに相違ありません。又、さう云ふ風に發達して行くように子供は生れ付いてゐます。だが、親の不注意の結果、發達し損つた部分があるならば、それは一生涯の障碍になります。

三

子供にとつては、見ること、考へること、行爲することが同時です。見ること、理解すること、行ふことが一ツの衝動によるのです。

生後六ヶ月の子供は、既でに、常に自分を表現する機會を捉へようとしてゐます。子供ば自分が表現し得ることよりもより多くを理解してゐることは誰でもが觀察してゐる處です。

幼稚園と云ふ言葉は適當な名だと思ひます。卽ち、幼稚園は畑で、子供は種であります。

そして、此の種は美しい花を開き、立派な實を結ぶように充分充實した力を持つて此の世の中へ送られて來たものです。そして、その力を充分伸すか伸ばさないかは母の腕であります。

生れながらに持つて來てゐる力を充分に發揮させるには其れに相當した正しい條件が必要です。そして、その正しい條件を用意するには、全心全力を捧げた熱心な母の愛がなければなりません。

草木を培養する庭師は春とか秋とかの或る期間注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を怠らずに居ればよいのですが、子供と云ふ種を保育する母と云ふ庭師は春夏秋冬、及び、日夜の別なく見守つて居なければなりません。

　フレーベルは申ます。「子供と云ふものは成長しつつある時代々々に於て既でに完全である。その發達中のどの時代に於ても親は何物をも附け加へる必要はない。子供が持つてゐるものを完全に展開させようとするのを親は、唯、手傳へばいゝのだ。」と。

　子供は生れながらに、將來に於て必要な凡ての素質を持つてゐるものか、又は、生れて後に周圍から與へられるものであるか、どうかはまだ大いに考へて見なければならない餘地があると思ひますが、そのどちらにしても子供に對し親が注意を怠つてならないと云ふことは同じです。

　或る心理學者は、又「子供は多くの活動の一束ではなく、一個の活動である。故に或る一箇所に與へられた影響は全部に影響する。子供は一ッの完全な中心を持つてゐる。そして、その中心から徐々と自分を伸して行くのである。」と。そして、この中心を塞害は種と云つてゐるのです。

　この中心乃至種が伸びようとしても伸びられない邪魔な石が何處かにあるとすれば其れを取り除ける責任は母にあるのです。ですから、今更云ふまでもなく、母の責任は重大です。

　子供が社會に出た時、彼の義務を充分果し得るように、社會と云ふ網の弱い目に子供がならないように母は注意しなければなりません。

　又、子供は、何にかよく出來たものを見た時には、自分もそれと同じものを造り上げようとする衝動にかられます。そして、必ずそれが自分にも出來るように信ずるものです。そして、此處に、子供には完全な手本を見せなければならない理由があります。

　ですから、父母は實際生活に附ての完全な手本でなければなりません。父母が子供の完全な手本であるならば、それは必ず子供を善導して、子供が大きくなるに從つて益々面倒な問題が起ることの代りに、自分も子供もより幸福により自由になることが出來ます。

四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

育兒に關して高い理想を申ますと「中流以下の母は子供の食べることから着ることから其の外一切のことに手がかゝつて、つまり、實際の事柄で手は一杯になつて、それ處ではない。」と反駁します。勿論、小さい子供が四五人もあるならば、母の忙しさは非常です。

けれども、子供達の精神的活動をより自由にするために家庭生活を出來るだけ單純にしようとする時に、それは不可能な事柄ではありません。

たとへば、衣服に付て考へて見ませう。誰でも美的本能を持つてゐるものですから、美しい格恰のよい着物を着た子供を見るのは誰でも好みます。ですから、親が其れを好むのは人一倍であるに相違ありません。

とは云へ、それは必ず高價な品物を要しません。複雜な飾りもいりません。丈夫な品物、單純な縫ひ方で可愛い子供らしい衣服を造ることが出來ます。つまり着物としての功用を果すと同時に、藝術的にすることが出來るのです。

常識は其の表現に於て必ず粗糙でありません。又、粗糙にする必要はありません。なぜなら、最も自然なものが常に最も美しく、且つ、最も品のよいものです。

此の點に母達は充分に注意しなければならないと思ひます。

衣服に付てばかりでなく、食に付ても、又、住に付ても、母が虚飾を選け、無駄をはぶくことに心がけるならば、今日よりも遙かに煩雜さを又、費用の點をも少なくすることが出來るに相違ありません。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

▲誌代及郵稅は前金の事▲御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと▲郵券代用は五厘切手にて一割増▲廣告は御照會次第御相談いたします

昭和二年五月廿三日印刷納本
昭和二年六月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山田わか女史著

昭和婦人讀本

處女篇
家庭篇
各
定價壹圓
送料拾錢

◆本書は著者の生活記錄です。
◆本書は信念を基礎とした著者の言行錄です。
◆本書は著者の婦人論です。
◆本書は輕薄思想に對する著者の抗議です。
◆本書は女性のたましひの擁護です。
◆本書は全女性に對する要求です。
◆本書は女性の希望を披露した豫言です。
◆本書は母性愛を精神とする文化運動です。
◆本書は著者の人生哲學です。

現代女子教育の理念
母性愛中心の文化運動

現代女性の思想的覺醒への公開狀！

發行所
東京市牛込區赤城元町
電話牛込三一七九番
振替東京四四三五三番
株式會社 文教書院